

富山大学 教養教育院

令和3年度第1回

FD活動報告書

Faculty Development Report

FD



Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
使えるシラバスの書き方・・・・・・・・・・・・・・・・	2
主体的学びにつなげる成績評価とルーブリック・・・・・・・・	6
参考資料	
・FD 研修会での説明スライド	
・開催要項	
・参加状況	

はじめに

令和3年度第1回教養教育院 FD 研修会「使えるシラバスの書き方と主体的学びを促すルーブリック」を Zoom ミーティングにより9月10日に開催しました。本 FD 研修会は2部構成として企画し、第1部では「学生と教員との共通理解を図るためのツールとなるシラバス」とはどのようなものかを示しました。第2部では、ルーブリックの基本的な説明を行ったうえで、正しい成績評価の在り方について理解を深めることを目指しました。これらにより、教育の質の保証に対する問題意識を教員の間で共有し、大学教育に対する教員の意識改革を促すことを目的としました。

シラバスについては「シラバス作成マニュアル」に従って記載内容を見直ししている中で、それで十分ではないかという声も聞こえてきます。本当にそれで十分でしょうか。文部科学省中央教育審議会大学分科会（令和2年1月22日）から提出された「教学マネジメント指針」の中で、「シラバスは個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在である」、さらに「単なるコースカタログにとどまることなく、学位プログラムの卒業認定・学位授与の方針における当該授業科目の位置付けや他の授業科目との関連性の説明、学生が事前準備のための学修や事後の発展的な学修を主体的に行う上での指針とすることができる事前・事後学修の指示を含み、授業の行程表として機能するとともに、何を学び、身に付けることができるのか（到達目標）を明確に定めることで適切な成績評価を実施するための基点としても機能するよう作成される必要がある」、とされています。特に、本学でも問題になっている同一名称授業科目での成績評価については、次の具体的な提案がされています：「各授業科目の到達目標について、ルーブリック等を用いてその具体的な達成水準を事前に明らかにしておくことは、厳格な成績評価の実施や学生の学修意欲の向上の観点から有効と考えられる。特に、初年次の学生を対象として開講される基礎的な授業科目のように、同一の名称・到達目標を有する授業科目を複数の教員が分担して開講している場合には、担当教員同士で協議の上、ルーブリックの活用等により成績評価に関し適切に共通理解を構築することが、成績評価の平準化を図る観点から特に重要であることに留意する必要がある」。

この FD 研修会の報告書は、単に研修会当日の様子を記録に留めるのではなく、シラバスの作成やルーブリックの導入において活用できるテキストとなるよう作成しました。次頁以降の「使えるシラバスの書き方」と「主体的学びにつなげる成績評価とルーブリック」というテキストは、もともとは教育改善検討 WG 内での勉強会用に谷井一郎先生が用意したものです。その勉強会を起点として、今回の FD 研修会が企画されました。FD 研修会の中で行われたシラバスとルーブリックについての説明は、これらテキストを基に構成されたものであり、その説明スライドは参考資料として本報告書に加えられています。テキストと説明スライドとを共にご覧いただくと、今回の FD 研修会の内容をより良く理解していただけるものと思います。

使えるシラバスの書き方

1. シラバスの目的

シラバスというのは授業計画のことで、具体的には、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるもの。また学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われるということで、複数の役割を持っているということになる。

シラバスの役割

- (1) 授業選択ガイド
- (2) 契約書
- (3) 学習効果を高める教材
- (4) 教員と学生の関係作りのツール
- (5) 授業の雰囲気伝える／知る
- (6) 授業全体をデザインする

(7) カリキュラム全体に一貫性をもたせる：管理職がこのシラバスを見て個々の先生がどんな授業をしているのか、重複はないだろうか、欠如しているものはないだろうか、ということをチェックする。

(1)～(6)は学生にとっての役割で、効果的な作成と活用により学生の学習をもっと促進することができるようになる。

2. シラバス各項目について

① 授業のねらいとカリキュラム上の位置づけ（目的）

学生から、「なぜこの授業を学ばなければいけないのか？」という問いに対する答え。授業の存在意義などを書く。

書き方のコツ

- (1) 学生を主語にする
- (2) 「～するために」を入れるとよい
- (3) 総括的な動詞を用いて表現する：例「修得する」「身につける」「理解する」「創造する」「位置づける」「価値を認める」「知る」「認識する」など

② 達成目標

- ✓ 目標とは、授業終了後に学生にできるようになってほしい能力（Goal、Learning Outcomes）、つまり先生が教えた結果、学生が何を学び、何ができる

ようになっているのかということ。

- ✓ 目的を具体化したものということで目的と対応関係がなければいけない。
- ✓ 観察可能（測定可能）な行動（動詞）で記述し、「～できる」とする。
- ✓ 成績評価項目と一致させる。

書き方のコツ

- (1) 学生を主語にする
- (2) 一つの文章に一つの目標を書く（箇条書きで数個から十数個）
- (3) 評価基準を明確に：
- (4) レベルは現実的かつチャレンジングなレベルに設定する→ジャンプすれば届く距離

目標を定めるための観点とそこで使われる動詞（「～できる」とする）

- (1) 知識（認知的領域）

「列記（挙）する」「述べる」「具体的に述べる」「推論する」「記述する」「説明する」「分類する」「比較する」「例を挙げる」「対比する」「類別する」「弁（識）別する」「関係づける」「解釈する」「予測する」「結論する」「同（特）定する」「公式化する」「一般化する」「指摘する」「選択する」「使用する」「応用する」「適応する」「批判する」など

前のものほどシンプルで初学者向け、後は大学院レベル

*「学ぶ」「理解する」は抽象的で幅広いので目的ではOKだが、到達目標ではNG

- (2) スキル（精神運動的領域）

「測定する」「実施する」「模倣する」「熟練する」「工夫する」「触れる」「行う」「調べる」「操作する」「挿入する」「準備する」「手術する」「視診する」「聴診する」「触診する」「打診する」など

後は医学領域

- (3) 態度（情動的領域）

「協調する」「配慮する」「参加する」「コミュニケーションする」「討議する」「尋ねる」「示す」「見せる」「助ける」「感じる」「行う」「相談する」「寄与する」「反応する」「応える」など

③ 授業計画

- ✓ 各回の内容を具体的に書く
- ✓ 内容を体系的に書く
- ✓ 他科目と調整する

- ✓ 学生の現状を把握する
- ✓ 学生の効果的学習を促進する

④ 適切な成績評価の書き方

大学における成績評価の問題点について、下記の問題点が指摘されている。

- ・ 評価の原則を教員が十分に理解していない
- ・ 明確に設定されていない目標に基づいて評価しようとしている
- ・ 知識のみを評価し、態度、技能の評価が行われていない、またはその評価方法が適切でない
- ・ 総括的評価（最終的な評価）が重視され、形成的評価（学習の途中で行われる評価）が不十分である

(1) なぜ評価情報を書くのか

法令に定められている：「大学は、学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっては、客観性および厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」（大学設置基準第25条の2より）

教育研究者による：「学習に最も強い影響を与えるのは評価方法であろう。試験の質問項目やレポートの課題に何を選ぶのかということが、学生の学習に強い影響を与える」（Entwistle 1996より）

なぜ評価を行うのかについては下記の3点になる

- ・ 学生自身が復習をし、授業で学んだことを整理する機会
- ・ 学生が自分の理解度を確認するための機会
- ・ 学生がさらに学ぶ動機を獲得する機会

(2) 評価に関わる情報の書き方

明記すること

- ✓ 成績を評価する方法
- ✓ 成績評価の配分割合
- ✓ 評価の採点基準
- ✓ テストやレポートの内容・提出期限

評価についての留意事項

- ✓ 目標を評価する（原則すべての目標に対して）
- ✓ 評価対象は測定可能なものにする

- ✓ 具体的に書く（評価情報が学習を制御する）
- ✓ 目標に対応した方法を選択する

(3) 目標に対応した評価方法

①認知的領域（知識）に対応した評価方法

知識・理解に対応した方法：客観試験、論述試験

思考・判断に対応した方法：口頭試験、論文、レポート

②精神運動領域（スキル）に対応した評価方法

運動技能・操作技能の評価方法：実地試験、シミュレーション、観察試験

コミュニケーションの評価方法：口頭試験、観察試験、相互評価

アカデミック・スキルの評価方法：論文、レポート

③情動的領域（態度）に対応した評価方法

態度の評価方法：実地試験、シミュレーション、観察評価

意欲・関心の評価方法：レポート、ポートフォリオ、相互評価、心理テスト

(4) 評価情報の例

出席点は評価の対象にしない

受講態度は？求めている受講態度は何？到達目標に書かれていない

グループワークの評価項目

- ①真剣：課題に真剣に取り組んでいた
- ②的確：課題をしっかりと理解していた
- ③主張：自分の違憲を積極的に主張していた
- ④役割：与えられた役割をしっかりと果たそうとしていた
- ⑤本題：話がそれたときに本題に戻そうとしていた
- ⑥納得：妥協ではない納得した結論を出そうと努力していた
- ⑦傾聴：相手の意見をしっかりと聴き、理解しようとしていた
- ⑧仲間：グループに溶け込もうとしていた
- ⑨笑顔：つまらなそうな表情ではなく、笑顔で皆と接していた
- ⑩援助：消極的なメンバーに声をかけていた
- ⑪同意：優れた意見に共感・同意・賛成を表明していた
- ⑫鼓舞：話し合いが楽しくなるように場を盛り上げていた

①から⑥は目標達成行動、⑦から⑫は集団維持行動

主体的学びにつなげる成績評価とルーブリック

1. 成績評価の目的

評価の意義

- ✓ 学生にとっては、到達度の把握、次の学びにつながる（学びの支援）という意義がある
- ✓ 教員にとっては、学生の理解度の確認・支援、教育の改善につなげられる
- ✓ 機関にとっては、教育の質の保証する機能、社会・国民への説明責任

総括的評価と形成的評価の使い分け

	形成的評価	総括的評価
目的	学習途上の改善	達成された成果の測定
機能	優れた点、改善点などのフィードバック	合格水準の判定
時期	学習中	学習終了後
成績評価	含めない	含める
範囲	狭い、学習内容のみ	広い、発展的課題も含む

2. 評価を設定する際のポイント

評価の方法（上に行くほど単純、下に行くほどは複雑）

筆記 ←	選択回答式問題	断片的評価・活動観察	実演 →
	自由記述式問題	実技テスト：面接、口頭試問	
	パフォーマンス課題 小論文、作品制作、プレゼンなど		

*いろいろな評価方法を組み合わせた評価をポートフォリオ評価という

評価の評価

- ✓ 信頼性：結果の再現性、テストの精度、つまり同じ集団に同室の試験を何回行っても同じ結果が得られる程度
- ✓ 妥当性：評価方法の適切性、つまり用いる評価方法が測定対象となる能力や行動を測定できているかどうか（大事な観点だが難しい）
- ✓ 客観性：採点者間による結果の一致性、つまり採点者が変わっても結果が同じかどうか、採点者の主観が入って人によってこころ判断が変わることがない
- ✓ 効率性：評価の時間的、経済的な実用性、つまり実施や採点が容易であるかどうか

か

*妥当性は他の項目とトレードオフの関係になっている

3. シラバスにおける適切な成績評価の書き方

(5) なぜ評価情報を書くのか

法令に定められている：「大学は、学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっては、客観性および厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」（大学設置基準第25条の2より）

教育研究者による：「学習に最も強い影響を与えるのは評価方法であろう。試験の質問項目やレポートの課題に何を選ぶのかということが、学生の学習に強い影響を与える」（Entwistle 1996より）

(6) 評価に関わる情報の書き方

明記すること

- ✓ 成績を評価する方法
- ✓ 成績評価の配分割合
- ✓ 評価の採点基準
- ✓ テストやレポートの内容・提出期限

評価についての留意事項

- ✓ 目標を評価する（原則すべての目標に対して）
- ✓ 評価対象は測定可能なものにする
- ✓ 具体的に書く（評価情報が学習を制御する）
- ✓ 目標に対応した方法を選択する

(7) 目標に対応した評価方法

①認知的領域（知識）に対応した評価方法

知識・理解に対応した方法：客観試験，論述試験

思考・判断に対応した方法：口頭試験，論文，レポート

②精神運動領域（スキル）に対応した評価方法

運動技能・操作技能の評価方法：実地試験，シミュレーション，観察試験

コミュニケーションの評価方法：口頭試験，観察試験，相互評価

アカデミック・スキルの評価方法：論文，レポート

③情動的領域（態度）に対応した評価方法

態度の評価方法：実地試験，シミュレーション，観察評価

意欲・関心の評価方法：レポート，ポートフォリオ，相互評価，心理テスト

4. ルーブリックの基礎

① ルーブリックとは何か

ルーブリックとは，ある課題をいくつかの構成要素に分け，その要素ごとに評価基準を満たすレベルについて詳細に説明したもの。

ルーブリックの例（グループによる模擬授業を評価するのに用いたもの）

グループによるオムニバス講義の模擬授業を評価するためのルーブリック			
	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり，よい構成であった	全体として統一感を持たせようとした努力が見られた構成であった	全体として統一感に乏しく，各トピックがバラバラな印象を受けた
レベル設定	初学者にとって，全体が「少し手を伸ばせば届くレベルの適切な教授内容であった	初学者にとっておおむね「少し手を伸ばせば届くレベルであったが，一部高度なところや優しすぎる場所があった	初学者にとって全体が「高度すぎる，もしくはやさしすぎる内容であった
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自分で勉強してみたいと興味をもった	授業内容について授業中はとても興味をもって聞いて満足したが自分でさらに勉強しようとは思わない	授業内容について特に興味をそそられることはなかった

このようにプロジェクトやパフォーマンスを評価する課題における評価軸を可視化するもので，例えば，レポート，書評，討論への参加，実験レポート，グループワーク，プレゼンテーションなどの評価をサポートするもの。

② ルーブリックの必要性と効果

ルーブリックの利点

✓ 採点の時間の節約

ルーブリックを作るには時間を要するが，作ってしまえば採点で時間を効率的に使える。

✓ 学生へのフィードバック

ループリックを使えばタイミング良く、意味のあるフィードバックを学生に返すことができる。課題の終了後できるだけ早くフィードバックを返すことが、次の課題において学生の前向きな変化をもたらすために有効である。フィードバックまでの時間が空けば空くほど、フィードバックの価値は実際に低下する。素早くフィードバックをかけるためにループリックは有効である。学生はループリックを通して課題の中で繰り返すつまずく箇所や継続的に伸びている部分を自覚する。自らの学修について批評的に振り返ることを学生に促すことで、「自己評価と自己改善」を習慣化するよう、学生を奮い立たせることができる。

③ ループリックの要素

4つの基本要素

要素1：課題（ループリックの一番上）

何について評価したか、教員が学生に期待するある種の行動が含まれたもの。

要素2：評価観点（表の左）

課題における達成が期待される要素をもれなくあげる。一般的に7個程度まで。行動の「質」についての記載は含めない。学生の学習の指針とフィードバックに利用する。それぞれの評価観点に割合やポイントをつけることで、その課題の相対的な重要度を強調できる。

要素3：評価尺度（表の最上段）

与えられた課題がどれだけ達成されたかを表すもの。通常、1～5程度の区分。使用される評語は明確かつ教育的配慮が必要。

例：「特に優秀，かなり優秀，前進途中，萌芽的」，「高度，有能，やや有能，もう少しで有能」，「目標達成，平均的，発展途上，初期」など。

初めてループリックを作る場合は3段階の行動レベルから始めるとよい。その後、修正して5段階までにしていくとよい。段階を増やせばそれだけ段階間の違いをつけることが難しくなる。

要素4：評価基準（表の内部）

評価観点ごとの到達程度を具体的に記述する。

表を作る際には最高レベルの評価基準から決めると作りやすい。最高レベルのみを記述したループリックもある（採点指針ループリックとよばれる）。最高レベル以外の記述では、隣のレベルとの差異を明確に記述し、学生がなぜ最高レベルの評価に達しなかったのかを書く。または、学生が最もつまずきやすい点を記述する。最も低いレベルの箇所では達成すべきだったことを強調するとよい。

5. ルーブリックの作成手順

4つの基本的段階

第1段階：振り返り

学生に何を求めているのか、何故この課題を作ったのか、について振り返る。以下の8つの観点で振り返りを行う。

- (1) この課題を設定したのは何故か
- (2) 全く同じ課題、または類似の課題を以前にも課したことはあるか
- (3) この課題は教えている他の内容とどう関係しているか
- (4) この課題を完成させるために、学生が持たなければならないのはどのようなスキルか
- (5) この課題で学生に求める活動は具体的にどのようなものか
- (6) この課題で学生に達成することを期待した事項が達成された場合、学生はどのような証拠を示せば良いか
- (7) この課題で学生に期待する最高水準はどのようなものか
- (8) 課題未提出は別として、最低の評価となる提出物はどのようなものか

第2段階：リストの作成

課題の具体的内容は決める。できるようになってほしい学修目標は何かについて焦点を絞る。シラバスの学修の目的、到達目標に対応している。

第3段階：グループ化と見出し付け

評価観点を定める。

課題に期待する様々な事項をグループ化し、各グループに見出しをつけたものが評価観点となる。評価観点が十分かどうか、抜けがないかどうかを確認する。明確で中立的なものにすることが大事である。

第4段階：表の作成

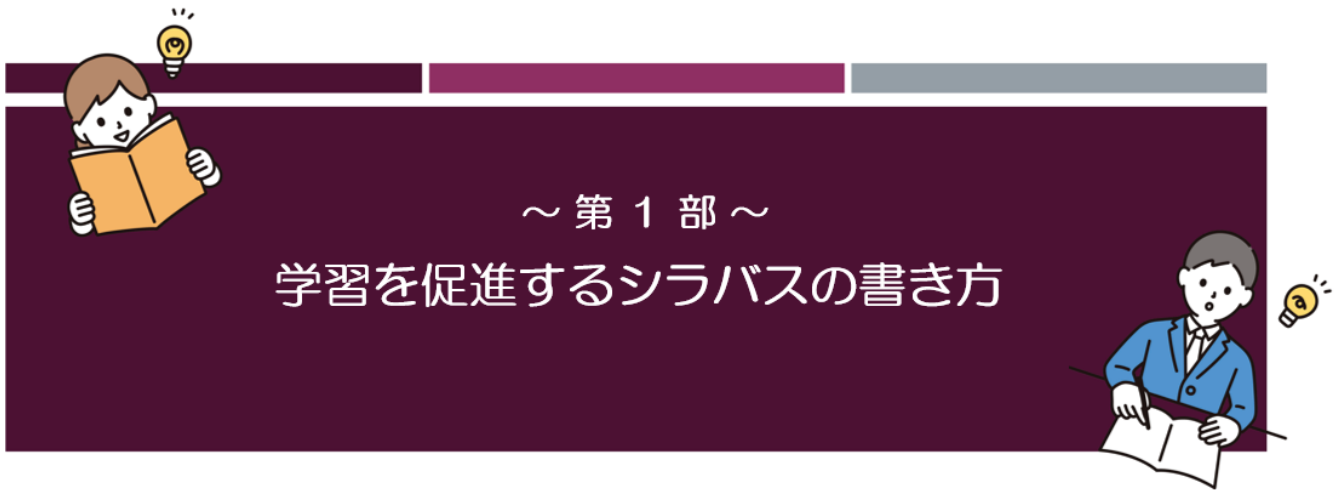
評価尺度の段階数とラベルを定める。ラベルは教育的配慮：やる気を促すものであって、やる気をそぐ様な批判的な表現はしないようにする。

評価基準は最高水準の基準から決める。次に最も低い水準の基準を決める。最期に中間レベルの記述となる。

(参考)

「大学教員のためのルーブリック評価入門」(ダネル・スティーブンス&アントニア・レビ、佐藤浩章監訳、玉川大学出版部)

「インタラクティブティーチング」(栗田佳代子、河合出版)



福田 翔

(教養教育院)

令和3年度第1回教養教育院FD
「学習を促進するシラバスの書き方とループリックの活用」
令和3年9月10日(金) 13:00~15:30 (Zoomオンライン配信)

はじめに

栗田佳代子他(編著) 2017『インタラクティブティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—』河合出版



東大FDのインタラクティブ・ティーチングの特徴

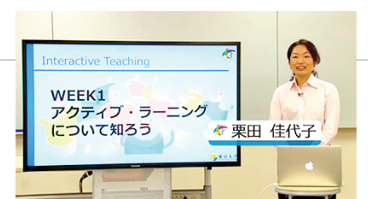
1. 東大FDのウェブサイトで、インタラクティブ・ティーチング各コンテンツを視聴することができます。
[インタラクティブ・ティーチング 受講方法](#)

2. コースで受講したい場合には Coursera (各国の大学や企業から、学位をオンラインで習得してスキルを身につけることができるサイト) で開講されています。

[Interactive Teaching \(インタラクティブ・ティーチング\) | Coursera](#)

修了証が必要な場合には有料ですが、不要であればすべてのコンテンツを無料でご利用いただけます。詳しくはこちらをご覧ください。

「インタラクティブ・ティーチング」がCourseraで公開されました- 東京大学大学総合教育研究センター



(<https://www.he.u-tokyo.ac.jp/activities/interactive-teaching/>)

シラバスとは何か？－定義

各授業科目の詳細な**授業計画**。 ～（中略）～

学生が各授業科目の**準備学習**等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、**教員相互の授業内容の調整**，学生による授業評価等にも使われる。

（文部科学省答申用語集，2008，p.4）

シラバス = 授業計画（学生が授業の準備学習を進めるための基本となるもの）

シラバスの役割

(1) 授業選択ガイド

(2) 学習効果を高める教材

(3) 契約書

(4) 教員と学生の関係づくりのツール

(5) 授業の雰囲気を知る／伝える

(6) 授業全体をデザインする



(7) カリキュラム全体に一貫性をもたせる

学生にとって

教員にとって

佐藤2010，栗田他（編著）2017:71-72等参照

富山大学のシラバス項目

- ◆ 授業科目名
- ◆ 授業種別
- ◆ 開講学期曜限
- ◆ 時間割コード
- ◆ 単位数
- ◆ 連絡先（研究室、電話番号、電子メール等）
- ◆ オフィスアワー
- ◆ リアルタイムアドバイス
- ◆ 授業のねらいとカリキュラム上の位置付け（目的）
- ◆ 達成目標  2. 目的・目標の書き方
- ◆ 授業計画（授業の形式、スケジュール等）
- ◆ 授業時間外学修（事前・事後学修）
- ◆ キーワード
- ◆ 教科書・参考書等
- ◆ 成績評価の方法  3. 評価の書き方

2. 目的・目標の書き方

ワーク（1）：ペア

1. シラバスの役割

2. 目的・目標の書き方

3. 評価の書き方

① 目的の設定（「授業のねらいとカリキュラム上の位置付け」）

- ✓ 学生からの「**なぜこの授業を学ばなければならないのか？**」という問いに対する答え。
- ✓ 授業の存在意義などを書く。

📝 書き方のコツ

- (1) 「～するために」を入れるとよい
- (2) 学生を主語にする
- (3) 総括的な動詞を用いて表現する

例：「習得する・身につける・理解する・創造する・位置付ける・価値を認める・知る・認識する」

栗田他（編著）2017:73-74等参照

1. シラバスの役割

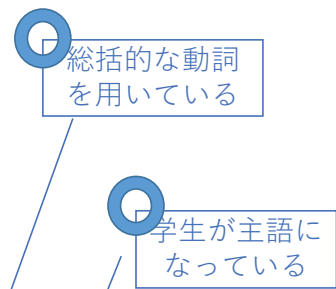
2. 目的・目標の書き方

3. 評価の書き方

① 目的の設定

「2021年度 中国語基礎Ⅰシラバス」より

授業のねらいとカリキュラム上の位置付け（一般学修目標） Course Objectives	教育目標 Educational Goals
中国語基礎では、中国語普通話（標準語）を学習します。ピンインと呼ばれる中国式ローマ字の読みを通して発音を学ぶことから始め、中国語の基本的な文法を習得することを目指します。	
・授業のねらい 現代中国語の基本的な発音ができ、かつ聴いて理解でき、読んで理解できることを目指します。初めて中国語を学ぶ人にとって最も大事なものは、発音です。発音表記としてはピンイン（中国式ローマ字）を用いますが、その読み方は中国語独自のものですし、日本語にはない発音や声調（音の高低変化）もあって、日本語や英語とは全然違います。最初に発音を徹底的に練習して、中国語の正確な発音を習得し、なおかつ聴きとれるようにします。またピンインの習得は、中国語の辞書を引くための早道でもありますから、中国語読解のためのごく初歩的な技術の習得をすることにもなるでしょう。	
中国語は日本語と同じく漢字を用いて表記します。しかし、現代中国語の漢字には、「簡体字」と呼ばれる日本語の常用漢字の字体とは異なるものもあります。中国大陸で使用される中国語の「簡体字」は略字ではなく、正式な字体です。また、日本語と中国語で同じ漢字を使った語彙でも意味が異なる同形異義語も少なくありません。	
この授業では、テキストに沿って肯定文、否定文、疑問文や動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文といった文の基本構造や時間表現などの初歩的な文法を学んで理解し活用できるようになることを目指します。	



中国語の基礎では、中国語普通話（標準語）を学習します。ピンインと呼ばれる中国式ローマ字の読みを通して発音を学ぶことから始め、中国語の基礎的な文法を**習得する**ことを目指します。

✗ 最も重要な、この授業を学ぶ目的（「～するために」）が書かれていない！

〈修正案〉

- 1) 中国語の運用能力を身につける**ために**、ピンインと呼ばれる中国式ローマ字の・・・。
- 2) カルチュラル・インテリジェンス（異文化理解能力）を高める**ために**、中国語普通話を学習します。

② 目標の設定

- ✓ 目標とは、授業終了後に学生に**できるようになってほしい能力** (Goal, Learning Outcomes)
- ✓ 目的を**具体化**したもの (目的との対応関係が必要)
- ✓ **観察可能な行動** (動詞) で記述
- ✓ **具体的な**記述で学生の自学自習を促す
- ✓ 評価基準を明確にし、**成績評価と一致**させる

✎ 書き方のコツ

- (1) 学生を主語にする
- (2) 一つの文に一つの目標を書く (箇条書きで数個から十数個)
- (3) 評価基準を明示
- (4) 達成目標は目的を具体化したもので、目的との対応関係が必要
- (5) レベルは現実的かつチャレンジングなレベルに設定する (ジャンプすれば届く距離)

栗田他 (編著) 2017:76等参照

② 目標の設定

(A) 基礎情報科学 (東大HP『インタラクティブティーチング』例題)

複数の目標が1文中に入っている!

[到達目標] 図書館における**情報検索方法**について**学ぶ**と同時に、**情報リテラシー**の基本を**理解する**。「学ぶ」「理解する」は**抽象的で幅広い**ため、「目標」ではNGワード!

(B) 哲学概論 (東大HP『インタラクティブティーチング』例題)

[到達目標] **哲学の世界**に**どっぷり**つかる経験を通して、**考えることの楽しさ**について講義する。

〈(B)の修正案〉

学生が主語になっていない!

- 1) 授業で扱った代表的な哲学的問題の中で、**3点**、問題とそれをめぐる論争が**説明**できる。
- 2) 講義で学んだ思想を**応用**し、現代の社会問題について自身の**意見を述べる**ことができる。
- 3) 互いの意見の違いを**尊重**しながら、**グループ**で**討議**できる。

② 目標の設定

- 1) 授業で扱った代表的な哲学的問題の中で、3点、
問題の内容とそれをめぐる論争を**説明**できる。
- 2) 講義で学んだ思想を**応用**し、
現代の社会問題について自身の**意見を述べる**ことができる。



- 3) 互いの意見の違いを**尊重**しながら、
グループで**討議**できる。

栗田他（編著）2017:74-75

東京大学HP『インタラクティブティーチング』「Week 5 もっと使えるシラバスを書こう」 (<https://www.utokyofd.com/mooc/attend/knowledge/week5>) 参照

② 目標の設定

- 「列挙する」 「**述べる**」 「推論する」 「**説明する**」
「対比する」 「**分類する**」 「**関係づける**」 「**予測する**」
「**結論する**」 「**公式化する**」 「**一般化する**」
「**指摘する**」 「**応用する**」 など



- 「**協調する**」 「**配慮する**」 「**参加する**」 「**コミュニ**
ケートする」 「**討議する**」 「**尋ねる**」 「**示す**」 「**感**
じる」 「**行う**」 「**相談する**」 「**反応する**」 など

- 「**測定する**」 「**実施する**」 「**模倣する**」 「**熟練す**
る」 「**工夫する**」 「**触れる**」 「**行う**」 「**調べる**」
「**発音する**」 「**書き取る**」 「**活用する**」 など

中島（編）2016，栗田他（編著）2017:74-75等参照

② 目標の設定

「2021年度 中国語基礎Ⅰシラバス」より

達成目標 / Course Goals	中国語のシラバスは、 スキルに偏りすぎている！
授業のねらいにあげたことをまとめると次のようになります。 ・ピンインに従って発音することができる。 ・発音を聞いてピンインで書き取れるようになる。 ・授業で習った単語を漢字、ピンインで書けるようになる。 ・中国語の辞書が引けるようになる。 ・中国語の文の基本構造及び基本的な文法を理解し活用できるようになる。	} スキル (精神運動的領域)

3領域を意識して、達成目標を書きなおすと・・・

知識 (認知的領域)

- ・ 150語程度の初級中国語の語彙を覚えて、言うことができる。
- ・ 挨拶、感謝、謝罪など定型的な表現を述べることができる。

スキル (精神運動的領域)

- ・ 覚えた語彙や文法を使って、短い文や30文字程度の文章を作ることができる。

態度 (情動的領域)

- ・ 自己紹介等、あらかじめ準備した内容を、皆に伝わるように話すことができる。

ワーク (1) : ペア (10分間)

これから「達成目標」を修正するペアワークを行います。こちらで操作し、ブレイクアウトルームにご案内します。同じルームに入った方と話し合っ、課題を行って下さい。



- 手順:**
- ① ブレイクアウトルームに分かれ、2人ペアになる (自動:こちらで操作)
 - ② ペアで「文系」「理系」のいずれの達成目標のワークを行うか選ぶ (チャットにURL送信)
 - ③ ペアでどちらかが Google Form に入力するかを決める
 - ④ ペアで話し合った結果を、1人がGoogle Form に入力し、ワークを完成させる



※ペアの相手が反応しない場合等は、個人ワークでもOKです。
 或いはメインルームに戻っていただければ、こちらで再度割り振ります。

ワーク（1）

（課題1：文系科目）「日本史」

1つの文に複数の目標が書かれている

【達成目標】近代の最も大きな変革期であった明治期以降の政治・社会・文化について歴史資料や視覚資料に基づいて理解し、現代に繋がる日本の近現代史について幅広く多様な視点の獲得をめざす。

評価基準が明快ではない（明示されていない）

「理解する」は評価に適した動詞ではない

（課題2：理系科目）「神経科学の基礎」

【達成目標】認知神経科学に関する計測技術とそれを応用した最新の研究について、基本的事項を理解する。

評価基準が明快ではない（明示されていない）

3. 評価の書き方

ワーク（2）：個人

1. シラバスの役割

2. 目的・目標の書き方

3. 評価の書き方

適切な成績評価の書き方

- ✓ なぜ評価情報を書くのか

「大学は、学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっては、**客観性および厳格性を確保**するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」

(大学設置基準第25条の2)

「**学習に最も強い影響を与える**のは評価方法であろう。試験の質問項目やレポートの課題に何を選ぶのかということが、学生の学習に強い影響を与える」

(Entwistle, 1996)

東京大学HP『インタラクティブティーチング』「Week 5 もっと使えるシラバスを書こう」 (<https://www.utokyofd.com/mooc/attend/knowledge/week5>) 参照

1. シラバスの役割

2. 目的・目標の書き方

3. 評価の書き方

適切な成績評価の書き方

- 評価欄に明記すること

成績を評価する**方法**

成績評価の配分**割合**

評価の採点**基準**

テストやレポートの**内容・提出期限**

- 留意事項

目標と対応させる

測定可能なものを評価する

具体的であるほど自習を促す

東京大学HP『インタラクティブティーチング』「Week 5 もっと使えるシラバスを書こう」 (<https://www.utokyofd.com/mooc/attend/knowledge/week5>) 参照

「2021年度 中国語基礎Ⅰシラバス」より

成績評価の方法/Evaluation

平常点（授業への貢献度・課題の完成度など）30%、まとめテスト70%を総合して評価します。（授業に出席することは前提です。）

- ✓ テストや課題の内容・実施日・提出日等が不明
- ✓ 評価方法が大雑把
- ✓ 達成目標とほとんど対応していない

達成目標

知識（認知的領域）

- ① 150語程度の初級中国語の語彙を覚えて、言うことができる。
- ② 挨拶、感謝、謝罪など定型的な表現を述べるることができる。

スキル（精神運動的領域）

- ③ 覚えた語彙や文法を使って、短い文や30文字程度の文章を作ることができる。

態度（情動的領域）

- ④ 自己紹介等、あらかじめ準備した内容を、皆に伝わるように話すことができる。

成績評価の方法

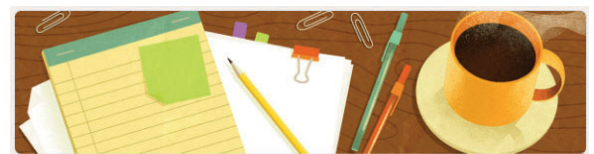
・まとめテスト [2回]	: 50% (6月14日/ 8月2日実施)	→ 目標 ① ③ に対応
・小テスト [4回: 単語]	: 10% (4月19日/5月10・31日/7月5日実施)	→ 目標 ① に対応
・作文課題 [2回: 辞書可]	: 10% (7月2日/ 8月10日提出) [自己紹介, 趣味等]	→ 目標 ③ に対応
・口頭試験 [2回: 1対1会話]	: 10% (5月17日/7月26日実施) [挨拶, 気持ち等]	→ 目標 ② に対応
・口頭発表の相互評価 [2回]	: 20% (4月26日/7月12日実施) [自己紹介, 趣味等]	→ 目標 ④ に対応

ワーク（2）：個人（3分）

これから「成績評価」を修正する個人ワークを行います。
チャットにGoogle Form のURLを送るので、各自で取り
組んでみてください。

手順：

- ① チャットに送られたGoogle Form の URL をクリックする
- ② Google Formに入力し、ワークを完成させる



成績評価の方法について練習問題

fukudasho@gmail.com (共有なし)
アカウントを切り替える

下書きを保存しました

*必須

以下の授業科目の「成績評価の方法」はどこが問題ですか。
選択肢から選んでください（複数回答）。

例1) 【成績評価】「授業への参加態度」(40%)と「課題に対する回答」
(50%)、ならびに学期末の「レポート」(10%)によって評価する。*

- 評価方法を明記していない
- 出席を評価の対象としている
- 成績評価の配分比率を明記していない
- 評価対象を測定可能なものにしていない
- 受講態度の評価が教員の主観に基づいている（可能性がある）

次へ

フォームをクリア

ワーク (2)

1. 「授業への参加態度」 (40%) と「課題に対する回答」 (50%)、ならびに学期末の「レポート」 (10%) によって評価する。

主観に基づいている可能性がある

修正案1

「毎回の授業で出題する課題に対する小レポート」 (90%)
「学期末レポート」 (10%)

修正案2

「毎回の授業内容を確認する小テスト」 (40%)
「毎回の課題に対する小レポート」 (50%)
「学期末レポート」 (10%)

授業への参加態度の評価が含まれていると考えられる

修正案3 (3領域を考慮)

知識
「学期末レポート」 (10%)
スキル
「課題に対して調査してプレゼンテーションを作成する」 (50%)
態度
「講義または他の人の意見を聞いて自分の考えがどう変わったかを文章にまとめ提出」 (40%)

ワーク (2)

2. 75%以上の出席を要求する。出席要件を満たす者について、中間考査 (100点) と期末試験 (100点) の合計得点を100点満点に換算して成績評価を行う。

出席点を評価に組み込んでしまっていることが問題

修正案1

「中間試験」 (50%)
「期末試験」 (50%)

修正案2

「毎回の授業内容を確認する小テスト」 (20%)
「中間試験」 (40%)
「期末試験」 (40%)

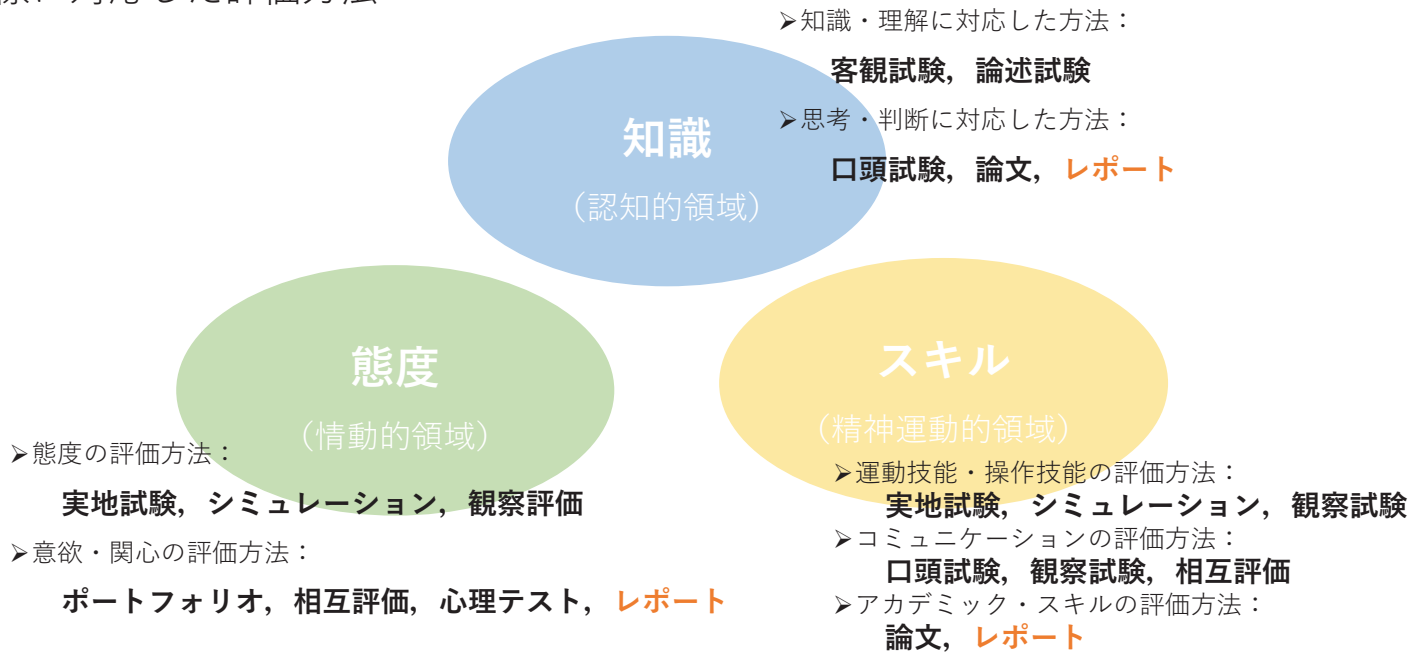
出席を重視していることが反映される

修正案3 (3領域を考慮)

知識
「中間試験」 (40%)
「期末試験」 (40%)
態度
「毎回の授業内容に対して関心を持ったことに対して、調査して小レポート」 (20%)

※この科目はおそらく知識伝授型の授業、態度を評価するのは難しいが修正例では小レポートで態度を評価することとした。

目標に対応した評価方法



栗田他（編著）2017:87参照

ご清聴ありがとうございました

参考文献

栗田佳代子他（編著）2017『インタラクティブティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—』河合出版

中島英博（編）2016『授業設計』玉川大学出版部

佐藤浩章（編）2010『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部

東京大学HP『インタラクティブティーチング』「Week 5 もっと使えるシラバスを書こう」 (<https://www.utokyofd.com/mooc/attend/knowledge/week5>)

第2部「学習を促進するループリックの活用」

講演前ワークのお願い

第2部は講演前の冒頭部分で個人ワークを実施します。

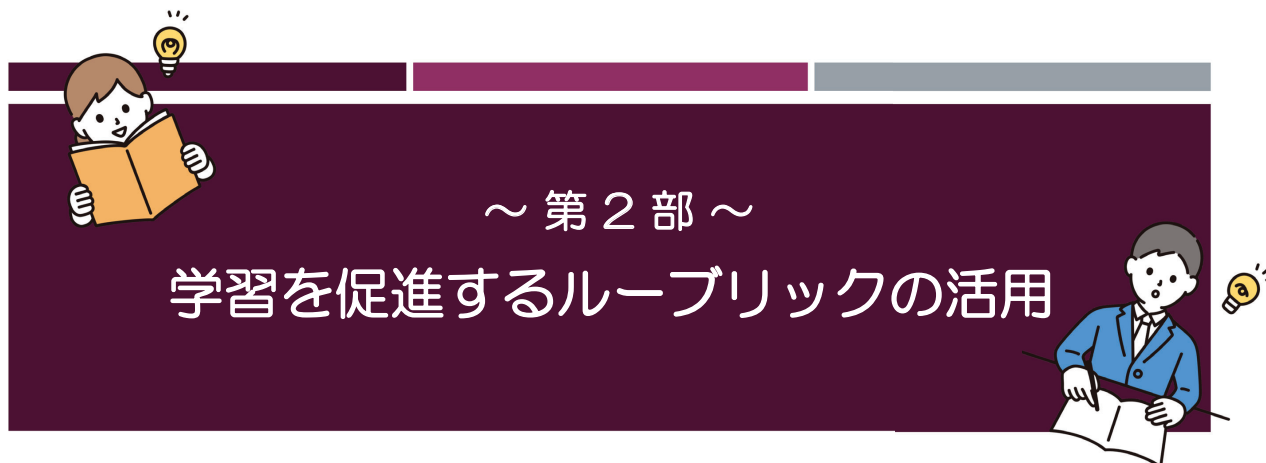
チャット欄で配布されるファイルを用いて4つの短いレポートを評価し(①)，評価結果をGoogleフォームに入力してください(②)。また，ループリックについてのアンケートにもご回答ください(③)。

チャット欄で配信

- ① ワーク用ファイル(後半のワークでも使用)
- ② レポート評価結果入力用GoogleフォームURL
- ③ アンケート用GoogleフォームURL

※ 結果は後ほど情報共有させていただきます。

※ 配付ファイルを印刷して使用することを推奨いたします。
後半のワーク時にも印刷推奨ファイルを配布します。



大橋 隼人
(教養教育院)

令和3年度第1回教養教育院FD
「学習を促進するシラバスの書き方とループリックの活用」
令和3年9月10日(金) 13:00~15:30 (Zoomオンライン配信)

アンケート結果

「ルーブリック」を知っていますか？

「ルーブリック」を使ったことがありますか？



目次

1. 成績評価の目的
2. 評価を設定する際のポイント
3. ルーブリックの基礎 ※ワークあり

(参考) ルーブリックの作成方法

1. 成績評価の目的

評価の意義

- 学生： 到達度の把握
次の学びにつながる（**学びの支援**）
- 教員： 学生の理解度の確認・支援
教育の改善につながる
- 機関： **教育の質の保証**をする機能
社会・国民への説明責任

形成的評価と総括的評価

	形成的評価	総括的評価
目的	学習途上の改善	達成された成果の測定
機能	優れた点・改善点などの フィードバック	合格水準の判定
時期	学習中	学習終了後
成績評価	含める／含めない	含める
範囲	狭い，学習内容のみ	広い，発展的課題も含む

2. ルーブリックの基礎

ルーブリック

ある課題をいくつかの構成要素に分け、その要素を評価観点として評価基準を満たすレベルについて詳細に説明した**評価基準表**。

例) 模擬授業



ルーブリックの例（グループによる模擬授業の評価用）

グループによるオムニバス講義の模擬授業を評価するためのルーブリック			
	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり、良い構成であった。 (2点)	全体として統一感を持たせようとした努力が見られた構成であった。 (1点)	全体として統一感に乏しく、各トピックがバラバラな印象を受けた。 (0点)
レベル設定	初学者にとって全体が少し手を伸ばせば届くレベルの適切な内容であった。(2点)	初学者にとって概ね少し手を伸ばせば届くレベルであったが、一部高度な内容や易しすぎる内容があった。(1点)	初学者にとって全体が「高度過ぎる、もしくは易しすぎる内容」であった。(0点)
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自分で勉強してみたいと興味をもった。(2点)	授業内容について授業中はとても興味をもって聞けて満足したが自分でさらに勉強しようとは思わない。(1点)	授業内容について特に興味をそそられることはなかった。(0点)

「インタラクティブ・ティーチング」 栗田（編著）2017 改変

- パフォーマンス課題における**評価基準を可視化**（客観性：高）
- レポート、グループワーク、プレゼン発表の評価をサポート

ルーブリックの要素

(4つの基本要素)

① 課題 (ルーブリックの一番上)

何について評価したか、教員が学生に期待するある種の行動が含まれたもの。

② 評価観点 (表の左側)

課題における達成が期待される要素をもらなく挙げる。一般的に7個程度まで。「質」についての記載は含めない。学生の学習の指針とフィードバックに利用する。それぞれの評価観点に割合やポイントを付けることで、相対的な重要度を強調できる。

① →

グループによるオムニバス講義の模擬授業を評価するためのルーブリック			
	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり、良い構成であった。(2点)	全体として統一感を持たせようとした努力が見られた構成であった。(1点)	全体として統一感に乏しく、各トピックがバラバラな印象を受けた。(0点)
レベル設定	初學者にとって全体が少し手を伸ばせば届くレベルの適切な内容であった。(2点)	初學者にとって概ね少し手を伸ばせば届くレベルであったが、一部高度な内容や難し過ぎる内容があった。(1点)	初學者にとって全体が「高度過ぎる。もしくは少し過ぎる内容」であった。(0点)
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自分で勉強してみたいと興味をもった。(2点)	授業内容について授業中ほども興味をもって聞けて満足したが自分でさらに勉強しようとは思わない。(1点)	授業内容について特に興味をそそられることはなかった。(0点)

ルーブリックの要素

(4つの基本要素)

③ 評価尺度 (表の最上段)

評価観点がどれだけ達成されたかを表すもの。一般的に5つ程度までの区分。

使用される評語は明確かつ教育的配慮が必要。

(例: 「特に優秀, かなり優秀, 前進途中, 萌芽的」, 「高度, 有能, やや有能, もう少しで有能」 「目標達成, 平均的, 発展途上, 初期」など)

初めてルーブリックを作る場合は3段階から始めて④評価判断を作成し、修正しながら5段階までに。

③ →

グループによるオムニバス講義の模擬授業を評価するためのルーブリック			
	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり、良い構成であった。(2点)	全体として統一感を持たせようとした努力が見られた構成であった。(1点)	全体として統一感に乏しく、各トピックがバラバラな印象を受けた。(0点)
レベル設定	初學者にとって全体が少し手を伸ばせば届くレベルの適切な内容であった。(2点)	初學者にとって概ね少し手を伸ばせば届くレベルであったが、一部高度な内容や難し過ぎる内容があった。(1点)	初學者にとって全体が「高度過ぎる。もしくは少し過ぎる内容」であった。(0点)
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自分で勉強してみたいと興味をもった。(2点)	授業内容について授業中ほども興味をもって聞けて満足したが自分でさらに勉強しようとは思わない。(1点)	授業内容について特に興味をそそられることはなかった。(0点)

ルーブリックの要素

(4つの基本要素)

	Excellent	Good	Developing
構成	全体として統一感がしっかりとあり、良い構成であった。(2点)	全体として統一感を持たせようとした努力が見られた構成であった。(1点)	全体として統一感に乏しく、各トピックがバラバラな印象を受けた。(0点)
レベル設定	初學者にとって全体が少し手を伸ばせば届くレベルの適切な内容であった。(2点)	初學者にとって概ね少し手を伸ばせば届くレベルであったが、一部高度な内容や難し過ぎる内容があった。(1点)	初學者にとって全体が「高難過ぎる、もしくは聞き過ぎる内容」であった。(0点)
学習意欲の喚起	授業内容についてさらに自みて勉強してみたいと興味をもった。(2点)	授業内容について授業中はとも興味をもって聞けて満足したが自分ですらに勉強しようとは思わなかった。(1点)	授業内容について他に興味をもたれることはなかった。(0点)

④ 評価判断 (表の内部)

評価観点ごとの到達程度を具体的に記述する。

最高レベルの評価基準から決めると作りやすい。

最高レベルのみを記述したルーブリックもある (採点指針ルーブリック)。

最高レベル以外の記述では、隣レベルとの差異を明確に記述し、なぜ最高レベルの評価に達しなかったのか、学生が最もつまずきやすい点などを記述する。最も低いレベルでは達成すべきだったことを強調する。

ワーク ルーブリックを用いたレポート評価

事前ワークで主観に基づいて評価した4つの短いレポートを、ルーブリックを用いて評価 (①, ②) し、評価結果をGoogleフォームに入力 (③) してください。

アンケート ルーブリックのメリット・デメリット

ルーブリックを用いて評価することのメリット・デメリットをGoogleフォームに入力 (④) してください。

チャット欄で新たに配信

- ① ワーク用ファイル (講演前ワークと同じもの)
- ② レポート評価用ルーブリック (※ 印刷推奨)
- ③ 評価結果入力用GoogleフォームURL
- ④ ルーブリックのメリット・デメリット回答用GoogleフォームURL

レポート評価用ルーブリック

観点		理想的	標準的	要改善
構成	立場の表明	冒頭または末尾に立場に関する記述がある。2点	冒頭または末尾以外に立場に関する記述がある。1点	立場に関する記述がない。0点
	立場をとる根拠	文章の中で立場をサポートする根拠となる文献が2つ以上示され、正しく引用情報が書かれている。3点	立場をサポートする根拠となる文献が1つ示されている。1点	立場をサポートする根拠となる文献が示されていない。もしくは、そもそも立場に関する記述がない。0点
	立場のサポートとは関係のない記述	立場のサポートとは関係のない記述がない。2点	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割未満である。1点	立場のサポートとは関係のない記述が全体の2割以上である。0点
表現	誤字・脱字	誤字・脱字、文法上の誤りがない。2点	誤字・脱字、文法上の誤りが1～2カ所ある。1点	誤字・脱字、文法上の誤りが3カ所以上ある。0点
	文体		常体（だ、である調）もしくは敬体（です、ます調）で統一されている。1点	常体と敬体が混じっている。0点

「インタラクティブ・ティーチング」 東京大学総合研究センター 公開講座より

次の課題に対して提出された4つのレポートについて、10点満点で評価してください。

課題：「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か。いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。

レポート1

私は、「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成である。その理由は、佐藤（2010）が指摘するように、「学生が主体的に考えるきっかけを作る」「能動的な参加の機会を持たせる」「競争を促すことで、積極性を引き出すことができる」というメリットがあるからである（p. 17）。また、バークレイ・クロス・メジャー（2009）は、グループで行うアクティブ・ラーニングの一つである協同学習に関して、学習効果と学生の満足度の両面から、その効果の高さを示す多くの実証研究があることを指摘している（pp. 11-16）

参考文献 佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010年
エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア＝メジャー『共同学習の技法：大学教育の手引き』、安永悟監訳、ナカニシヤ出版、2009年

「インタラクティブ・ティーチング」 東京大学総合研究センター 公開講座より

次の課題に対して提出された4つのレポートについて、10点満点で評価してください。

課題：「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か。いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。

レポート2

佐藤(2010)が史的するように、「学生が主体的に考えるきっかけを作る」「能動的な参加の機会を持たせる」「競争を促すことで、積極性を引き出すことができる」というメリットがある(p. 17)。だから、アクティブ・ラーニングを取り入れるといいと思います。また、私は先生が離すばっかりの授業だとずっと寝ていた。でも、一度だけ教育実習の先生が来たときにしたグループ活動の内容はイマでも覚えているから、アクティブ・ラーニングは効果があると思います。

参考文献 佐藤浩章編 『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010年

「インタラクティブ・ティーチング」 東京大学総合研究センター 公開講座より

次の課題に対して提出された4つのレポートについて、10点満点で評価してください。

課題：「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か。いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。

レポート3

私は、大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきだと思う。その理由は、学生の学びを深めるには、アンブローズほか(2014, 第3章)が言うように、学生のモチベーションを高めることが重要だからである。モチベーションを高めるには、学生にとっての「主観的価値」の高い目標、すなわち学生自身にとって重要な目標を立てることが重要である。また、実際に授業を履修することで、その価値を達成できるというポジティブな結果予期を持たせることと、協力的な環境を作ることも重要である。このような仕方で、学生のモチベーションを高めるべきである。

参考文献 スーザン・A. アンブローズ、マイケル・W. ブリッジズ、ミケーレ・ディピエトロ、マーシャ・C. ラベット、マリー・K. ノーマン『大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための7つの原理』、栗田佳代子訳、玉川大学出版部、2014年

「インタラクティブ・ティーチング」 東京大学総合研究センター 公開講座より

次の課題に対して提出された4つのレポートについて、10点満点で評価してください。

課題：「大学の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるべきである」という主張に賛成か、反対か。いずれかの立場を選び、根拠となる文献を参照・引用しながら論じなさい。

レポート4

私はこれまで、アクティブ・ラーニング形式の授業を受けたことがない。しかし、ぜひ受けてみたかったと感じている。特に、初年次に受けた選択科目の教育思想の授業では、先生の話が全く理解できず、寝てしまうことも多かった。テストでも失敗し、単位を得ることもできなかった。あの授業の問題点は、アクティブ・ラーニングを取り入れなかったことにある。初等・中等教育ではなおさらである。私は、中学校の教員を目指している。中学での授業には、大学以上に、飽きさせないための工夫が必要である。このため、アクティブ・ラーニングの手法についてこれからも学んで、授業を改善していきたい。

「インタラクティブ・ティーチング」 東京大学総合研究センター 公開講座より

**ループリックを用いた評価結果を
Googleフォームに入力してください**

ルーブリックを用いてレポートの
評価を行ったことにより感じた
ルーブリックのメリット・デメリット
をGoogleフォームに入力してください

主観に基づいた評価と
ルーブリックを用いた評価の比較

ループリックの効果と必要性

- 評価の公平性（客観性）の保証
評価観点と評価基準が**明確化**
採点者の主観による評価のバラつき減少
- 採点時間の節約
- 学生へのフィードバック
課題終了後にループリックを公開
 - ➔ 継続的に伸びている／つまづく要素を自覚
 - ➔ **自己評価と自己改善を習慣化**

ループリックのメリット・デメリット

アンケート結果

(参考) ルーブリックの作成手順

4つの基本的段階

第1段階：振り返り

学生に何を求めているのか、何故この課題を作ったのかについて、8つの観点で振り返りを行う。



(次ページ参照)

(振り返る8つの観点)

1. この課題を設定したのは何故か
2. 同じ課題または類似課題を以前に課したことはあるか
3. 授業の他の内容とどう関係しているか
4. 完成させるために必要なのはどのようなスキルか
5. 学生に求める活動は具体的にどのようなものか
6. 達成することを期待した事項が達成された場合、どのような証拠を示せば良いか
7. 期待する最高水準はどのようなものか
8. (課題未提出は別として、) 最低の評価となる提出物はどのようなものか

第2段階：リストの作成

この課題でできるようになって欲しい学修目標は何かを具体的に決める。シラバスの学修の目的、到達目標に対応させる。

第3段階：グループ化と見出し付け

評価観点を定める。

課題に期待する様々な事項をグループ化し、各グループに見出しをつけたものが評価観点となる。評価観点が十分かどうか、抜けがないかどうかを確認する。明確で中立的なものにすることが大事である。

第4段階：表の作成

評価尺度の段階数とラベルを定める。

ラベルは明確かつ教育的配慮が必要で、やる気を促すものであって、やる気をそぐ様な批判的な表現はしないようにする。

評価基準は最高水準の基準から決める。次に最も低い水準の基準を決める。最期に中間レベルの記述となる。

ループリックを用いた活用事例

全学必修科目「情報処理－A/B/C」

- 39クラス（クラス指定）
 - 同じ内容，同じ課題
 - 異なる担当教員
- 評価の公平性（客観性）が重要
- 課題採点用ループリックを共有して活用

参考文献

1. 「[大学教員のためのループリック評価入門](#)」
ダネル・スティーブンス，アントニア・レビ 著
佐藤浩章 監訳
玉川出版部，2014年
2. 「[インタラクティブ・ティーチング](#)」
栗田佳代子 編著
河合出版，2017年

令和3年度第1回教養教育院FD実施計画

テーマ：「学習を促進するシラバスの書き方とルーブリックの活用」

1. 開催趣旨

本FDは「学習を促進するシラバスの書き方とルーブリックの活用」と題し、履修者の学習をより効果的に促進させるためのシラバスと公平な成績評価を促すためのルーブリックの作成方法について説明し、それらを踏まえた実践的な演習を行うことで、授業改善の一助とすることを目的とする。

2. 開催日時

令和3年9月10日（金）13:00～15:30（予定）

3. 開催形態

Zoomを利用したオンラインミーティング形式

4. 対象

本学教職員，非常勤講師

5. 次第

(1) 開会・オリエンテーション 【13:00～13:05】
・開会挨拶・趣旨説明 彦坂 泰正（教養教育院教育改善検討WG座長）

(2) 学習を促進するシラバスの書き方 【13:05～13:45】
① シラバスについての説明
説明者：福田 翔（教養教育院教育改善検討WG）
② シラバスを修正する（ペアワーク）
③ まとめ

～休憩～ 【13:45～14:00】

(3) 学習を促進するルーブリックの活用 【14:00～15:20】
① ルーブリックについての説明
説明者：大橋 隼人（教養教育院教育改善検討WG）
② ルーブリックについてのグループワーク
③ まとめ

(4) 全体討議・質疑応答 【15:20～15:30】

(5) 閉会 【15:30】
・閉会挨拶 武山 良三（教養教育院長）

令和3年度教養教育院FD
「学習を促進するシラバスの書き方とルーブリックの活用」参加状況

所属部局等	参加人数
理事	1
教養教育院(理事含む)	15
理学部	1
工学部	7
都市デザイン学部	6
医学部	4
薬学部	1
芸術文化学部	3
研究推進機構	2
地域連携推進機構	2
国際機構	3
和漢医薬学総合研究所	2
総合情報基盤センター	2
非常勤講師	5
職員	4
合計	58

富山大学教養教育院 FD活動報告
令和3年度第1回FD研修会

教養教育院教育改善検討ワーキンググループ

座長：彦坂 泰正

上田理恵子

谷井 一郎

福田 翔

水野真理子

大橋 隼人